

第7章 環境学習を進める

第1節 生涯にわたる環境学習の体系的な推進

1 学校教育等における環境学習の充実 教育委員会学校教育課

(1) 環境教育モデル校

ア 環境教育モデル校 ～地域環境の特色を生かした取組の推進～

各学校における環境教育の質的な充実を図るため、環境教育モデル校を設置し、平成14年度は35校(小学校22校、中学校8校、高等学校5校)が参加しました。

モデル校では、各学校の実態や地域の特色を生かした創造的な実践活動を展開するとともに、よりよい環境の創造に向けて家庭や地域への啓発等を行いました。また、各学校の研究成果については、滋賀県環境学習フェアにおいて児童生徒がポスターセッション形式で発表を行いました。

イ 環境教育実践事例集の刊行 ～環境教育の推進と指導法の工夫改善～

環境教育モデル校の研究成果は、環境教育実践事例集として取りまとめています。平成15年3月に刊行した実践事例集第17集「行動力の育成を目指す21世紀の環境教育」では、滋賀県環境学習フェアで発表された環境教育モデル校の実践事例をまとめ掲載しました。

(2) 滋賀県環境学習フェアの開催

現在、県内の多くの学校で環境教育の取組が行われており、毎年、県環境教育研究協議会において、担当教員間の交流を行い環境教育の充実を図っています。

しかし、児童生徒間の交流の場は少なく、相互の理解を図っていくことが課題となっています。そこで、県内の小・中・高等学校での環境学習の取組を展示し、児童生徒、教員および県民の環境問題に関する意識の高揚と交流の場にするとともに、これからの環境教育のあり方を考えるため、平成14年度は児童生徒の交流会や教員の研究協議会を実施しました。

- 期 間 平成14年12月5日(木)～12月11日(水)

(ただし、12月5日～12月10日の間は展示会のみ)

- 会 場 滋賀県立琵琶湖博物館

- 内 容 ● 交流会(児童生徒による各校種別の取組事例発表会)

- ポスターセッション(各校の取組内容を示したパネル展示会場において児童生徒が自校の取組を、教員や一般参加者に説明)
- 環境教育研究協議会(県内各校の環境教育担当者による各校種別の環境教育に関する研究協議会)

平成15年度の予定 期間 平成15年12月3日(水)～11日(木)

(3) 菜の花で「うみのこ」を動かそう事業の実施

昨年度より市町村立の全小学校と県立障害児教育諸学校小学部を対象に実施しています。

この事業は菜の花がバイオディーゼル燃料に変わっていく過程に児童が体験的に関わる中で、資源循環の仕組みを学習し、身近な生活を見直し、省エネルギーなど環境にやさしい生活をしようとする意欲を育成することをねらいとしています。平成14年度は、240校が参加しました。

(4) 環境教育副読本の活用

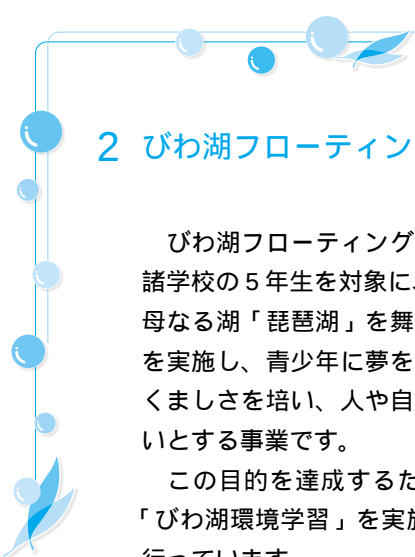
学校教育における環境教育を一層推進するため、環境教育副読本や環境学習シートファイルなどを発行しています。副読本については、県内国・公・私立の小・中学校へ1学年児童生徒数分を、また、高等学校へは3学級生徒数分を配布し活用を図っています。環境学習シートファイルは、中学校の全教員に配布し、活用しています。

表2-7-1 副読本・環境学習シートファイルの概略

	小学校編	中学校編	高等学校編
副読本名	あおいびわ湖	あおい琵琶湖	琵琶湖と自然
社会科 で活用する内容	第2章	第1章	第2、4、5章
理科で活用する内容	第3章	第2、3章	第1章
家庭科で活用する内容	第4章	第4章	第3章
道徳、特別活動で活用する内容	第5章	第5章	第6、7章
総合的な学習の時間で活用する内容	第1章		
環境学習シートファイル		環境学習シートファイル あおい琵琶湖	

高等学校では、地歴科および公民科。

なお今年度は、中学校編の改訂を予定しています。



2 びわ湖フローティングスクールによるびわ湖環境学習の推進

教育委員会びわ湖フローティングスクール

びわ湖フローティングスクールは、県内すべての小学校および障害児教育諸学校の5年生を対象に、学習船「うみのこ」を使い学校教育の一環として、母なる湖「琵琶湖」を舞台に、日常生活では得がたい宿泊体験学習型の教育を実施し、青少年に夢を育み、滋賀に新たな淡水文化を築いていく気概とたくましさを培い、人や自然と共に生きる人間形成に寄与していくことをねらいとする事業です。

この目的を達成するための活動のひとつとして、乗船校の計画に従って「びわ湖環境学習」を実施しています。主なものとして、次のような学習を行っています。

- 水質調べ学習

琵琶湖の北湖や南湖、校区の川や池の水の透明度を比べたりする「湖の子透明度調べ」、水深50～70mの琵琶湖の水を採水し、透明度や水温等を調べる「深層水調べ」、汚れた琵琶湖の水がもとの水に回復するには、どれだけの水が必要かを実験する「水質回復実験」、琵琶湖の水をろ過し、汚れ具合を観察する「水のにごり調べ」等を行い、琵琶湖の水の現状や課題について学習を深めます。

- 生物観察活動

琵琶湖の水からプランクトンを採取し、顕微鏡で観察する「プランクトン観察」、冬を中心に、琵琶湖に渡ってくる水鳥や野鳥を双眼鏡等で観察する「水鳥・野鳥の観察」、琵琶湖の水草の役目等を学習し、しおりにする「水草の観察・しおり作り」、琵琶湖のヨシについて学習し、ペンや笛を作る「ヨシの観察・ヨシ笛作り」等を行い、琵琶湖に棲む生物と水環境との関わりについて学習を深めます。

- 展望活動

湖上から双眼鏡等を使って島や漁船・えりなどの湖上に浮かぶもの、建物や山々・河口などの湖岸に見えるもの等を展望し、自然や文化・人々の営みの様子などを見たり感じたりします。

- 環境美化活動

自分たちが活動する場所のゴミ拾いをします。環境を美しくするというだけでなく、広く環境保全への関心が高まり、社会に貢献する実践へと結びつきます。

- カッター活動

琵琶湖に最も近づき、琵琶湖を肌で感じる活動です。カッターを漕ぐだけでなく、周りの景色を眺めたり、琵琶湖の水に触れたり等、五感を働かせて、雄大な琵琶湖を全身に感じることができます。

- 見学活動

琵琶湖博物館等を見学することにより、学習内容をより広めたり、深めたりすることができます。

乗船後に送られてくる子どもたちの作品には、これらの学習で学んだことが生き生きと綴られています。一例をあげると、

最初にぱっとプランクトンを見た時は、3種類ぐらい見えました。でもよく見ていると、10種類も見つけることができました。よく見えたのはメロシラとミカヅキモ、スタウラスツルムです。琵琶湖にしかないピワクンショウモも2つ見つけることができました。名前のわからないプランクトンがあり、先生に聞きました。こんなにたくさんのプランクトンを見つけれ、とってもうれしかったです。

水の透明度調べでは、十王の水がとてもきれいでした。他の水に比べてとても青かったです。次は水道水で、その次は芹川の水でした。予想していたよりきれいでした。その次は白石の水で、予想より汚かったので、ショックでした。一番汚いのは大津港の水で、少し茶色かったです。すごくショックでした。

沖島・白石・多景島の展望では、いつも遠くから見ている島をあんなに近くから見たのは初めてでした。とってもきれいだな—と思いました。

平成14年度の児童の作品より

琵琶湖の大きさや風景の美しさへの感動、水の汚れや湖岸のごみに対する驚き、水辺や水中に棲む生物への興味・関心など、子どもたちはこれまで何気なく眺めていた琵琶湖や郷土に対する見方・考え方を、この1泊2日の航海を通して大きく変えていくようです。

3 生涯学習としての環境学習の推進 教育委員会生涯学習課

本県では、多様化・高度化する県民の学習ニーズに対応するため、県内大学等との連携のもと、淡海生涯カレッジ事業を実施しています。このカレッジは、地域における今日的な課題について、公民館や公共施設での身近な問題の把握などの学習から、大学等での問題解決に向けての理論的な学習まで

を組み合わせた広域学習システムであり、地域を一つのキャンパスとした「地域の大学」として位置付けられています。

平成14年度は、大津市、草津市、彦根市、長浜市の4地域で開設し、滋賀大学生涯学習教育研究センター、滋賀県立大学および県立学校等の協力を得て、「環境」をテーマに、問題発見講座、実験・実習講座、理論学習講座を実施し、83名が修了しました。修了生は、地域での環境学習の講師や、様々な環境に関する行事の担い手として活躍していただくため、その人材情報を滋賀県学習情報提供システム(におねっと)に登録するとともに、さらに深く環境学習を行いたい人のためには滋賀大学教育学部附属環境教育湖沼実習センターの「客員研究員」への推薦を行い、学んだことを生かせるよう支援しています。

におねっとのホームページアドレス <http://www.longlife.pref.shiga.jp/>

表2-7-2 平成14年度淡海生涯カレッジ開設状況

カレッジ名	テーマ	問題発見講座 (5 回)	実験・実習講座 (5 回)	理 論 学習講座	受講生 (修了生)
淡海生涯 カレッジ 大津校	“ 環境人になろう ” びわ湖及びその集水域の環境から身近な自然・文化及び生活について考えてみませんか	平日コース		滋賀大学 教育学部	51人 (41)
		大津市立石山 公民館	大津市生涯学 習センター		
		土曜コース			
		大津市瀬田公 民館	県立膳所高等 学校		
淡海生涯 カレッジ 草津校	『環境文化の創造』 ～ひとりではじめ、みんな で進める環境づくり～	草津市アミカ ホール他	県立湖南農業 高等学校	滋賀大学 教育学部	33人 (21)
淡海生涯 カレッジ 彦根校	「クリーンなまちづくり」 歴史のまち彦根を見つめ ながら、私たちを取りま く環境問題について今、 家庭や地域・事業所で何 ができるかを考え、住み よいまちづくりについて 学びます	彦根市南地区 公民館	県立彦根工業 高等学校	滋賀県立 大学	20人 (11)
淡海生涯 カレッジ 長浜校	「環境とバイオテクノロ ジー」 ～私たちの暮らしと密接 に関係のある問題とバイ オテクノロジーについて、 一緒に学習してみま せんか～	長浜市立六荘 公民館（六角 館）	県立高等学校 4 校(長浜北、 長浜北星、長 浜農業、長浜)	滋賀県立 大学	24人 (10)